

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-245010

(43)Date of publication of application : 24.09.1993

(51)Int.Cl.

A47B 96/02

A47B 57/30

A47B 77/04

A47J 47/20

(21)Application number : 03-330153

(71)Applicant : T & M KK

(22)Date of filing : 19.11.1991

(72)Inventor : MATSUO FUMIO

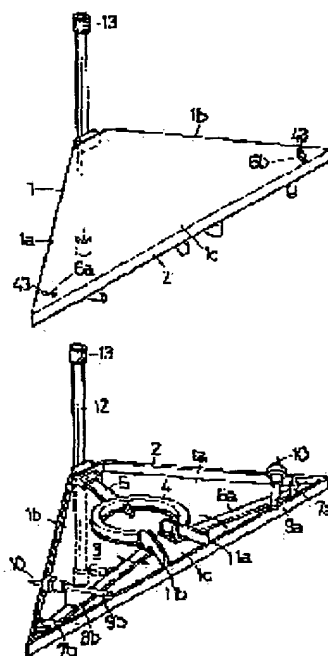
(54) SHELF FOR CORNER

(57)Abstract:

PURPOSE: To execute fitting work very easily regardless of the sort of a wall surface by arranging firmly fitting means to the wall surface projecting from two edge sides to be arranged confronting two wall surfaces.

CONSTITUTION: When knob pieces 11a, 11b are pulled closer to each other by resisting the spring force of a ring spring 4, or the pulling is released, then fitting pieces 6a, 6b slide in the directions of arrow heads.

Along with the sliding of the fitting pieces 6a, 6b, studs 9a, 9b are moved in the directions for crossing edge sides 1a, 1b. Then, needles 10 are moved between a position to be led to the internal sides of the edge sides, and a position to be projecting from the edge sides 1a, 1b. In other words, the studs 9a, 9b are energized by the ring spring 4 so that the needles 10 may always project from the edge sides 1a, 1b. A shelf plate 3 is set at a corner section in a room, and a pushing rod 12 is pushed against the crossed section of wall surfaces, and a rubber pad 13 is brought in close contact with the wall surfaces. Just by operating the knob pieces 11a, 11b, the shelf can easily be fitted.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 02.11.1993

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2528050

[Date of registration] 14.06.1996

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right] 14.06.2001

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-245010

(43)公開日 平成5年(1993)9月24日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 B 96/02	C	6850-3K		
57/30		8915-3K		
77/04	B	6908-3K		
A 4 7 J 47/20	D	8931-4B		

審査請求 未請求 請求項の数8(全 6 頁)

(21)出願番号 特願平3-330153

(22)出願日 平成3年(1991)11月19日

(71)出願人 391010932

ティーアンドエム株式会社

東京都文京区本駒込3丁目3番11号

(72)発明者 松尾 富美男

東京都文京区本駒込3丁目3番11号 ティー

ーアンドエム株式会社内

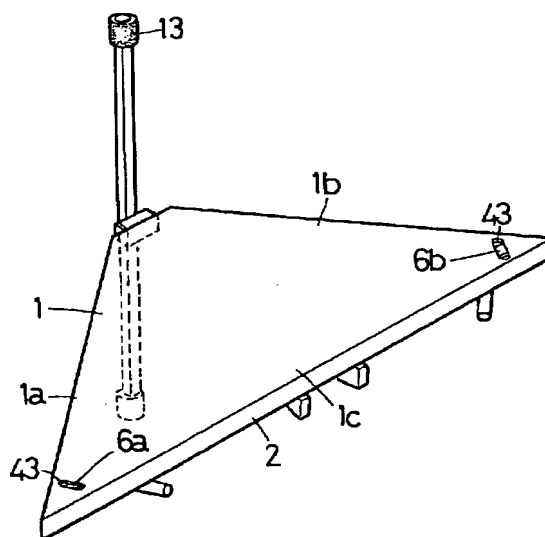
(74)代理人 富崎 元成

(54)【発明の名称】 コーナー用棚

(57)【要約】

【目的】コーナー部の壁面への取付を容易にする。

【構成】棚板1の裏面3に縁辺1a、1bを横切る方向移動自在に複数の止め具9a、9bを設け、止め具9a、9bの先端に縁辺1a、1bから突出自在に壁面への固着手段10を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】建物内部の2つの壁面が交差するコーナー部に設置されるコーナー用棚であって、前記2つの壁面に対向して配置される2つの縁辺(1a, 1b)を有する棚板(1)と、この棚板(1)の裏面(3)に設けられ、前記縁辺(1a, 1b)を横切る方向に移動自在な複数の止め具(9a, 9b)と、この止め具の先端に設けられ、前記縁辺(1a, 1b)から突出自在な前記壁面への固着手段(10)とを備えてなるコーナー用棚。

【請求項2】請求項1において、前記止め具(9a, 9b)を前記固着手段(10)が前記縁辺(1a, 1b)から常時突出するように付勢する付勢手段(4)を備えたコーナー用棚。

【請求項3】請求項2において、前記付勢手段(4)は周方向の略中央において、前記棚板(1)の裏面(3)に固定されたリングばねからなり、前記止め具(9a, 9b)は前記リングばね(4)の変位部分に固定されているコーナー用棚。

【請求項4】請求項3において、前記リングばね(4)は、その各自由端部に前記縁辺(1a, 1b)に向けて互いに反対方向に延びる取付片(6a, 6b)を有し、この取付片(6a, 6b)に前記止め具(9a, 9b)が固定されているコーナー用棚。

【請求項5】請求項3又は4において、前記複数の止め具のうち、前記リングばねの自由端部近くに配置された止め具(19a, 19b)のみが、該リングばね(4)に固定されているコーナー用棚。

【請求項6】請求項1において、前記棚板(1)の裏面(3)に回転自在に設けられ、前記止め具(49a, 49b)が従動する回転カム(50)を備えたコーナー用棚。

【請求項7】請求項1ないし6のいずれかが1において、前記固着手段は針(10)からなるコーナー用棚。

【請求項8】請求項1ないし6のいずれかが1において、前記固着手段は吸盤(20)からなるコーナー用棚。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明はコーナー用棚に関する。更に詳細には、室内のコーナー部の空間を有効に利用し、比較的軽量の小物類や装飾品等を置くためのコーナー用棚に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、この種のコーナー用棚は種々提案されているが、いずれも釘やねじを介して壁面に取付けるものである。したがって、取付け時には金づちで釘を打ち付けたり、あるいはドライバーでねじを回したりしなければならない。このため取付けが面倒で、時間がかかり、特に家庭の主婦などにとっては苦手な作業である。

【0003】また、例えばコンクリート壁、タイル壁な

ど壁面の種類によっては、釘やねじが挿入できない場合がある。更に、壁を傷付けることにもなり、取り外したとき美観を損なう。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】この発明の目的は、コーナー部の壁面への取付けを極めて簡単に行うことができるコーナー用棚を提供することにある。

【0005】この発明の別の目的は、壁面の種類いかにかわらず、取付けることができるコーナー用棚を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】この発明は上記目的を達成するため次の手段を採用する。

【0007】すなわち、この発明は建物内部の2つの壁面が交差するコーナー部に設置されるコーナー用棚であって、前記2つの壁面に対向して配置される2つの縁辺(1a, 1b)を有する棚板(1)と、この棚板(1)の裏面(3)に設けられ、前記縁辺(1a, 1b)を横切る方向に移動自在な複数の止め具(9a, 9b)と、この止め具の先端に設けられ、前記縁辺(1a, 1b)から突出自在な前記壁面への固着手段(10)とを備えてなるコーナー用棚である。

【0008】前記止め具(9a, 9b)は、前記固着手段(10)が前記縁辺(1a, 1b)から常時突出するように付勢手段(4)によって付勢されている。

【0009】前記付勢手段(4)は周方向の略中央において、前記棚板(1)の裏面(3)に前記棚板(1)の裏面(3)に固定されたリングばねからなり、前記止め具(9a, 9b)は前記リングばね(4)の変位部分に固定されている。

【0010】前記リングばね(4)は、その各自由端部に前記縁辺(1a, 1b)に向けて互いに反対方向に延びる取付片(6a, 6b)を有し、この取付片(6a, 6b)に前記止め具(9a, 9b)が固定されている。

【0011】前記複数の止め具のうち、前記リングばねの自由端部近くに配置された止め具(19a, 19b)のみが、該リングばね(4)に固定されている。

【0012】前記棚板(1)の裏面(3)に回転自在に設けられ、前記止め具(49a, 49b)が従動する回転カム(50)を備えている。

【0013】前記固着手段は針(10)又は吸盤(20)からなる。

【0014】

【作用】取付け時には止め具を手指で押圧して、あるいは付勢手段の付勢力により押圧して固着手段を棚板の縁辺から突出させ、壁面に固定する。

【0015】

【実施例】この発明の実施例について図面を参照しながら以下に説明する。

【0016】第1実施例

図1はこの発明の第1実施例を示す透視図であり、図2は同実施例の裏面側の透視図であり、図3は同実施例の裏面側の平面図である。コーナー用棚を構成する棚板1は、その2つの縁辺1a、1bが直角をなす略直角三角形形状に形成されている。棚の取付時には縁辺1a、1bが建物内部のコーナー部の互いに交差する2つの壁面に対向して配置される。棚板1は2つの縁辺1a、1bがコーナー部の壁面に対向する形状であればよく、したがって三角形に限らず、他の縁辺1cを円弧とした扇形、あるいは四角形以上の多角形であってもよい。

【0017】棚板1の周縁全体にわたって、補強のための垂下枠2が形成されている。棚板1の裏面3にはリングばね4が配置され、このリングばね4はその中央部において固定片5を介して棚板1の裏面3に固定されている。リングばね4は2つの自由端を有し、各自由端に設けたつまみ片11a、11bを指で互いに引き寄せることにより弾性変形が可能である。リングばね4の各自由端には、縁辺1a、1bに向けて互いに反対方向に延びる取付片6a、6bが設けられている。各取付片6a、6bの先端部は、縁辺1a、1cのなす隅部および縁辺1b、1cのなす隅部にそれぞれ設けられた保持片7a、7bによって枠2からの離脱が防止されている。

【0018】取付片6a、6bには起立片8a、8bを介して棒状の止め具9a、9bが固定されている。さらに、この止め具9a、9bの先端に針10が設けられている。針10は、図9に示すように、一端が開口した筒状部材23の閉鎖端側に固定され、この筒状部材23に止め具9a、9bが圧入されることに針10が止め具9a、9bに取付られる。

【0019】上記構成により、リングばね4のばね力に抗してつまみ片11a、11bを互いに引き寄せ、あるいは引き寄せを解除すると、取付片6a、6bは図3の矢印方向にスライドする。この取付片6a、6bのスライドに伴って、止め具9a、9bは縁辺1a、1bを横切る方向に移動する。これによって、針10は縁辺1a、1bの内側に引き込む位置と縁辺1a、1bから突出する位置との間を移動する。すなわち、止め具9a、9bは、針10が縁辺1a、1bから常時突出するようにリングばね4によって付勢されている。

【0020】棚板3の縁辺1a、1bのなす直角部には、壁面の交差部へ押付けするための押付けロッド12が棚板3と直角方向に上下に延びて設けられている。押付けロッド12は、棚板3に取付けられる中央部から上下方向にゆくにつれて、棚板3から離間する方向に軽く湾曲し、上下端部に筒状のゴムパッド13が設けられている。

【0021】使用法

つまみ片11a、11bを指で互いに引き寄せた状態で、すなわち針10を縁辺1a、1bから引込ませた状態で、棚板3を室内のコーナー部に配置し、押付けロッド

12を壁面の交差部に向けて押付け、ゴムパッド13を壁面に密着させる。この状態でつまみ片11a、11bを指から離し、針10を縁辺1a、1bから突出させ、壁面に突き刺す。

【0022】このようにつまみ片11a、11bを操作するだけで、複数の止め具9a、9bに設けた針10を壁面に同時に突き刺すことができ、棚の取付けをワンタッチで行える。この実施例ではリングばね4の変位量の関係で縁辺1a、1bの各々に1つの止め具9a、9bしか設けていないが、ゴムパッド13が壁面に密着し、両者間に摩擦力が作用することから、棚板3上に小物類を載せても棚板1が容易に落下することはない。なお、針10が壁面に固着されたかどうかは、棚板1に設けた窓43から取付片6a、6bの位置を確認することによって行われる(図1参照)。

【0023】この実施例では、固着手段として、針10が用いられている。したがって、この実施例による棚は、木製あるいは合板製などの板壁のコーナー部に取付けられる。

【0024】第2実施例

図4は、この発明の第2実施例を示す平面図である。前記第1実施例のリングばね4は略真円形である。これに対しこの実施例では、リングばね14は、固定部材15、16を介して裏面3に固定される中央部からハの字状に延びる第1直線部17a、17bと、それらの端部から内側に延びる第2直線部18a、18bとからなっている。そして、第1直線部17a、17bにそれぞれ2つの止め具9a、9bが設けられている。したがって、棚は止め具9a、9bだけで十分壁面に保持され、第1実施例のようなゴムパッド13は不要である。

【0025】第3実施例

図5は、この発明の第3実施例を示す平面図である。この実施例は略真円形のリングばね4が用いられている点で第1実施例と同様であるが、固着手段として第1実施例と異なり吸盤20が用いられている。吸盤20は、可撓性材料からなる碗形状の周知のものであり、図10に示すように止め具が圧入される筒状部33を有している。また、この吸盤20が設けられる止め具19a、29a、19b、29bは、縁辺1a、1bに関連してそれぞれ2つずつ配置されている。

【0026】各2つの止め具のうち一方の止め具19a、19bは、取付片26a、26bに固定され、リングばね4の変位に伴って移動自在となっている。他方の止め具29a、29bは、リングばね4の変位とは無関係に移動自在となっている。すなわち、棚板1の裏面3に案内片21a、21bが立設され、この案内片21a、21bに設けた孔に他方の止め具29a、29bが移動自在に挿通されている。

【0027】したがって、一方の止め具19a、19bの吸盤20は、リングばね4を変位させることによって

10

20

30

40

50

壁面に吸着される。他方の止め具29a、29bの吸盤20は、止め具29a、29bの後端を指で押圧することにより壁面に吸着される。

【0028】吸盤20は、板壁に限らず、コンクリート壁、浴室などのタイル壁などにも吸着可能であるが、壁面が平滑でない場合や、多孔質の材料など吸着に不適当なとき吸着部分に粘着テープを貼り付けるとよい。

【0029】第4実施例

図6は、この発明の第4実施例を示す平面図である。この実施例では、リングばねが用いられず、すべての止め具39a、39bが案内片31a、31bに案内されて移動自在となっている。固着手段として、吸盤20が示されているが、針を用いてもよい。

【0030】第5実施例

図7は、この発明の第5実施例を示す平面図である。この実施例は、すべての止め具49a、49bが案内片41a、41bに案内されて移動自在となっている点で前記第4実施例と同様である。しかし、前記第4実施例は止め具39a、39bの後端を各々指で押圧することにより、固着手段20を壁面に固着させるものである。これに対し、この実施例では、棚板3の裏面に回転カム50が設けられ、その回転により固着手段10が壁面に固着される。

【0031】回転カム50は、外周に大径部および小径部を有する複数のカム面51が形成されている。止め具49a、49bは回転カムの運動に従動し、大径部において針10が縁辺1a、1bから突出して壁面に固着される。この実施例によれば、複数の止め具49a、49bを同時に移動させて、針10を壁面に固着できる。

【0032】第6実施例

図8は、この発明の第6実施例を示す平面図である。この実施例は、回転カム60を設ける点で前記第5実施例と同様である。しかし、この実施例では、回転カム60が外周に複数のカム溝61を有し、このカム溝61に止め具59a、59bの後端に設けた従動ピン62が嵌合されている点で前記実施例と異なっている。

【0033】第5、第6実施例とも固着手段として針10に代えて、吸盤を用いてもよい。この場合縁辺1a、1bに直角に吸盤を突出させるため、縁辺1c側の止め具49a、49b、59a、59bを図6に示した実施*40

*例のように、案内片によって各々移動自在となるように設けてもよい。

【0034】その他

上記の各実施例とも、棚板1、リングばね4などの材質は問わないが、加工の容易さなどの観点からプラスチック製とするのが望ましい。止め具の数は、各縁辺1a、1bに対して1つあるいは2つ設けたものを示したが、3つ以上であってもよい。また、固着手段として吸盤を用いることにより、種々の壁面に棚を取付けることができ、壁面に傷を付けることもない。

【0035】

【発明の効果】以上詳記したように、この発明によれば、棚を室内のコーナー部に簡単に取付けることができ、特に止め具を付勢手段により常時付勢することにより、あるいは回転カムに従動させることにより、ワンタッチで取付けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、この発明の第1実施例を示す透視図である。

【図2】図2は、同実施例の裏面側の透視図である。

【図3】図3は、同実施例の裏面側の平面図である。

【図4】図4は、この発明の第2実施例を示す図3と同様な図面である。

【図5】図5は、この発明の第3実施例を示す図3と同様な図面である。

【図6】図6は、この発明の第4実施例を示す図3と同様な図面である。

【図7】図7は、この発明の第5実施例を示す図3と同様な図面である。

【図8】図8は、この発明の第6実施例を示す図3と同様な図面である。

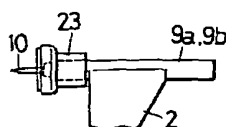
【図9】図9は、針を固着手段として用いた止め具の側面図である。

【図10】図10は、吸盤を固着手段として用いた止め具の側面図である。

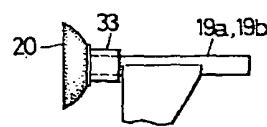
【符号の説明】

1…棚板、1a、1b…縁辺、3…裏面、4…リングばね、6a、6b…取付片、9a、9b…止め具、10…針、11a、11b…つまみ片

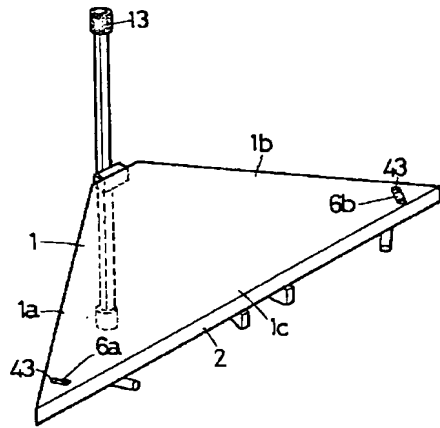
【図9】



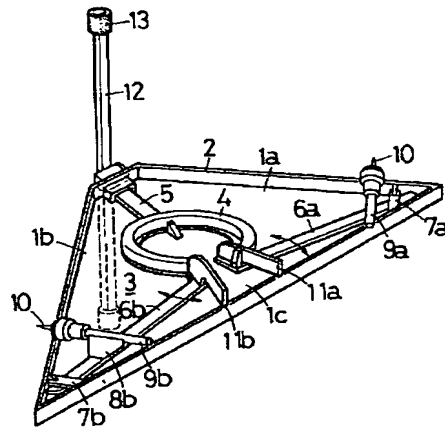
【図10】



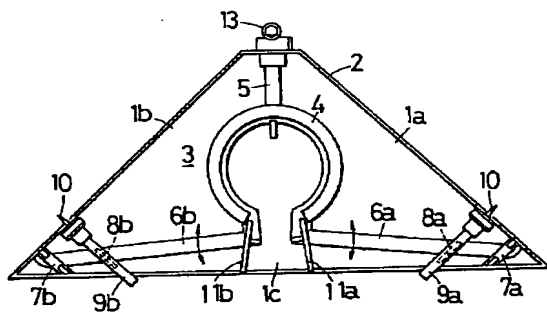
【図1】



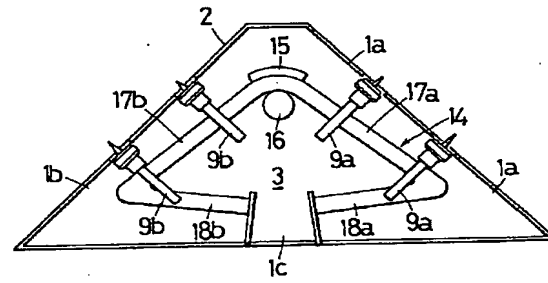
【図2】



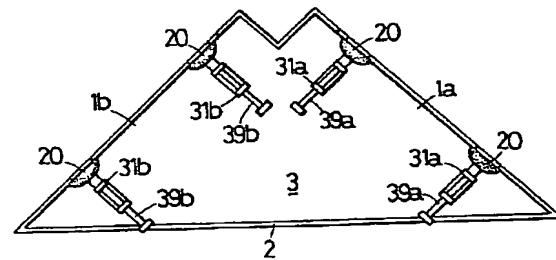
【図3】



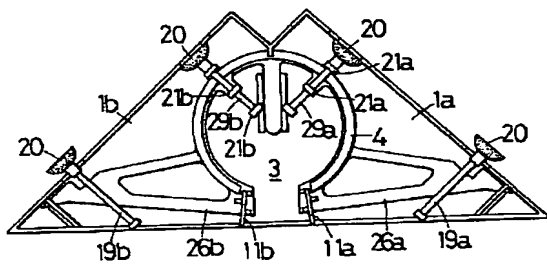
【図4】



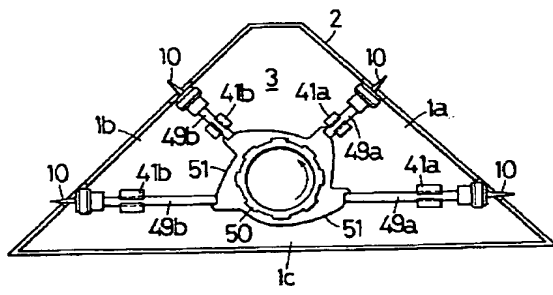
【図6】



【図5】



【図7】



【図8】

